金八先生の”歓び“は春までおあずけです。

師走も正月も走り続ける金八先生を応援してください。

3年B組
金八先生

RKKテレビ
木曜よる9時
好評放送中

武田鉄矢
長谷川哲夫
茅島成美
森田順平
金田明夫
山崎銀之丞
深江卓次
小西美帆
高畑淳子
鈴木正幸
星野真里
佐野泰臣（ほか）

RKK
熊本放送
■URL http://www.rkk.co.jp
■i-mode、J-SKYからもアクセス可能

第43回
熊本県芸術祭参加

ベートーヴェン

第九

第19回

平成13年12月23日（日・祝）午後6時
熊本県立劇場コンサートホール
主催／熊本県民第九の会・熊本県文化協会
助成／（財）熊本県立劇場

熊本県知事
潮　谷　義　子

祝　辞

第19回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

「第九」の演奏会は、昭和57年の県立劇場の開館を契機として始められ、今やすっかり、熊本の１年を締めくくる恒例行事として定着しています。

「第九」は、「たがいに手を取り合おう、億万の人々よ」と歌詞にもあるように、自由、平等、連帯によって平和が実現することを表そうとしたベートーヴェンの心が託された名曲です。今日にあっても、その思いは我々の心を打ち、共に歌う大勢の人達との一体感は、新しい年も頑張ろうという意欲を沸き立たせ、手を取り合って新しい世界を作って行こうという決意を新たなものにさせてくれます。

本日御出演の皆さんは、年齢も合唱経験もそれぞれに違う方々が、忙しい仕事や学業の合間をぬって練習に励まれ本番に臨まれています。どうか、今までの練習の成果を存分に発揮され、今年の暗い話題を払拭するような歓喜のハーモニーをコンサートホールいっぱいに響きわたらせ、会場にお越しの多くの県民の方々に感動と希望を与えていただきますよう期待いたします。

最後に、本日の演奏会の御盛会と皆様方のますますの御活躍をお祈りいたしましてお祝いのあいさつといたします。

熊本県立劇場館長
川　本　雄　三

祝　辞

熊本県民第九の会の第19回公演に心からお祝詞を申し上げます。

この「第九」演奏会の第１回は、熊本県立劇場が落成した昭和57年末、その記念事業として行われ、以後、県立劇場の開館10周年の特別記念事業のあった年だけは除いて、毎年末、恒例の演奏会として欠かさず開催され、ファンに喜ばれてきたものです。

近年、「第九」の演奏会は、年末のこの時期が近付くと毎日のように、全国の各所で行われているようです。いったい、全部で何回くらい開催されているのでしょうか。雑誌「音楽の友」によると、昨年の「第九」の回数は年間で156回、うち12月だけで125回を数えたとありました。

開催のやり方もいろいろあるようです。合唱団にしても、ただ欠員を補充するという方式のところも多いようですが、熊本の場合は毎回、いったん解散して新たに募集し直すというやり方に特色があるそうです。なるべく広い範囲の人たちに「第九」を経験してほしいというねらいだと聞きました。今回は公募によって320人ほどの合唱団が結成され、そのうち40人くらいが全くの新顔ということでした。

21世紀の初頭を飾る今回の「第九」演奏会もまた大成功を納めるように祈っております。

熊本県文化協会会長
安　永　蕗　子

世界の平安のために

第19回、第九の夜、12月になると心ひそかなときめきは第九の音曲をきくよろこびにことしもしばしの心をあずけたいと思う期待です。

今、日本の多くの町で、村で、冬になるとベートーベンの第九の夜がひらかれます。第九の曲が冬空をぬって流れます。私たちは我が町の空を流れる歓喜の音曲にひそかな安堵を抱き、この年の平安に感謝しました。しかし今年は、世界のくまぐままでこの曲の壮大な音いろがひびくことを祈りたいと思います。地上に在る凡その人が、共通の感動をもつのは、言葉を秘めた音楽でしかない。そこに音楽という芸術が、凡ゆる表現を超えて世界の生きる者への慰籍となった証しがあります。第九の壮大なひびきが地上の億万の心をひとつにした時、思いあまった人々は、それぞれの国の、町の、村の言葉で歌います。コーラルシンフォニーのコーラスはベートーヴェンへの答えの声、感謝の声だと思います。沈黙の奏者の心もひとつに盛りあげて、コーラスの、そして４人の独唱がひびきます。その声を、森を越え、山を越え、遠く砂漠の地へも運んでくれる夜の風の力を信じます。今年ほど、芸術の力をたのみたい、人々の平安をそれによって得たいと思うときはありません。

共通の愛の心を、それぞれの平安を信じて千人、百人、の集団の心がひとつになる夜に、心からの祝福を贈りたいと思います。御盛会を祈ります。

熊本県民第九の会実行委員長
草　刈　秀　士

ご　挨　拶

本日は年末のお忙しい中貴重な時間をさいてお越し頂き有り難うございます。

私どもは、大編成の合唱団の中でオーケストラと共にベートーヴェンの第九を歌う感激を、一人でも多くの皆様に体験して頂きたいとの思いから、合唱団は演奏会終了と同時に解散し、翌年は新規に団員を募集する仕組みを続けています。

今回は初心者（第九を初めて歌う方）が49名、第九の経験３回未満の方が67名（合せて36％）の方が経験者と共に練習を重ね本日を迎えました。

21世紀は世界的に景気が低迷し、各地で大変なことが勃発しています。先の米国中枢部同時多発テロ事件、アフガンの戦争、炭素菌問題等々は、未曾有の事件で心が痛みますが、人間はどうして殺しあうのでしょうか?

ベートーヴェンの第九は「おお、友よ、このような調べではなく!もっと快い、喜び深い調べを共に歌おうではないか」との呼びかけから始まり「全ての人々は兄弟となる」と、人類愛と世界平和を訴えています。本日は世界の平和を祈念して心を込めて演奏いたします。

今後ともなお一層の精進を致しますので、皆様方のご声援、ご来場を切にお願い申し上げます。

末尾になりましたが熊本県文化協会・熊本県立劇場の助成、ご後援の各社、その他多くの皆様方のご協力に感謝とお礼を申し上げます。

出　演
PERFORMANCE

指　揮		田代詞生
独　唱	ソプラノ	佐々木典子
	メゾ・ソプラノ	青山智英子
	テノール	井ノ上了吏
	バリトン	松本　進
合　唱	熊本県民第九の会合唱団	
	合唱指揮	林原隆治
		工藤勇壹
		松岡　聡
	ピアノ	古閑恵美
		真田眞澄
		浜田志貴
		林原ゆり
管弦楽	熊本交響楽団	

平成12年12月23日(土)《第18回熊本県民第九の会演奏会(指揮＝金　洪才)》から

指揮者のプロフィール
CONDUCTOR : PROFILE

指揮　田代詞生（たしろつぎお・Tsugio TASHIRO）

北海道出身。

指揮をホルスト・シュタイン、ミヒャエル・ギーレン、ワルター・ハーゲン・グロール、作曲を小倉朗、柳沢剛、木村雅信の各氏に師事。

日本大学芸術学部音楽学科（作曲）卒業後、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院（指揮科）に留学、同音楽院を経て1987～92年の間、指揮研究員としてウィーン国立歌劇場に所属すると同時に、ザルツブルク音楽祭にてホルスト・シュタイン、ワルター・ハーゲン・グロールの副指揮者、ウィーン芸術週間にてホルスト・シュタインの副指揮者を務める。

さらに、ヘネシー・オペラシリーズ、サイトウ・キネン・フェスティバルにて小澤征爾の副指揮者を務める。

また国内においては、日本フィル、新日本フィル、東フィル、東京都響、神奈川フィル、大阪センチュリー、名古屋フィル、群響、広響、札響をはじめ、各地の主要プロ・オーケストラを客演指揮、好評を博す。

『つべつ日本フィル・セミナー』常任指揮者。
『東京二葉シンフォニエッタ』音楽監督・常任指揮者
日本大学芸術学部音楽学科講師。
首都オペラ芸術顧問。
日本指揮者協会会員。

佐々木　典　子（ささき　のりこ）

ソプラノ

熊本県出身。武蔵野音大卒業。ザルツブルグモーツァルテウムに留学、同大学オペラ科を首席で卒業。1984年ウィーン国立歌劇場オペラ研修所に所属。1986年ウィーン国立歌劇場にソリストとして本契約。1990年熊本県女性賞を授与される。1991年フリーとなる。

ザルツブルグ「若人の情景」の「ドン・ジョヴァンニ」（ガッツァニーガ）のドンナ・アンナとマトゥリーナ役で出演したほか、ザルツブルグ官廷歌劇場の「ジャンニ・スキッキ」でのラウレッタ役、ヘルシンキ、ストックホルムなどで現代曲コンサートに出演。オーストリア、ドイツでは「交響曲第４番、子供の不思議な角笛」（マーラー）などの演奏会に出演。またフォルクスオパーの「ドン・ジョヴァンニ」をはじめ、1986年、89年ウィーン国立歌劇場日本公演、1987年、88年ザルツブルグ音楽祭などに、また1989年のウィーン国立歌劇場日本公演ガラコンサート（クラウディオ・アッバード指揮）に出演。その他数多くの演奏会に出演した。

レコード、CD、LDなどの録音も多数あり、東京、熊本、NHK･FMなどでのリサイタルに出演、最近の演奏会では95年の「ハ短調ミサ」（モーツァルト）、金沢アンサンブルの定期演奏会、「ラヴィ・パリジェンヌ」（オッフェンバック）など、96年には「三人姉妹の家」（シューベルト）や、音楽議員連盟主催の「芸術文化の夕べ」などの出演がある。また、02年二期会50周年記念「フィガロの結婚」、「ニュルンベルグのマイスター・ジンガー」に出演予定である。

現在、武蔵野音大講師。東京芸大講師、二期会会員。

青　山　智英子（あおやま　ちえこ）

メゾ・ソプラノ

武蔵野音楽大学卒業。愛知県立芸術大学大学院修了。

文化庁オペラ研修所第４期修了。リア･グアリーニ、エレーナ･オブラスツォア、菊池洋子、松山憲善、小島琢磨、高橋大海、疋田生次郎、の諸氏に師事。

1985年、文化庁派遣芸術家在外研修員として、渡伊、ミラノにて研鑽を積む。『カルメンシーター新人賞』第１位受賞。その後、二期会公演『カルメン』のタイトルロールに抜擢され、躍動感溢れる新しい魅惑のカルメン像を表現し、大型新人誕生と賞賛を浴びた。この活躍に対し、第15回ジローオペラ賞新人賞を受賞。翌年より、文化庁移動公演『カルメン』で６年連続全国各地で公演し、舞踊経験を生かした華麗な動きと妖艶な歌唱で聴衆を魅了した。また、他のオペラでは、ヴェルディの『アイーダ』アムネリス、『ドン･カルロ』エボリ、『仮面舞踏会』ウルリカ等、モーツァルトの『フィガロの結婚』ケルビーノ、『コジ･ファン･トゥッテ』ドラベラ、『イドメネオ』女王エレットラ、『ティトの慈悲』セスト、またワーグナーの『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『神々の黄昏』ヴァルトラウテ等の難役を、その幅広い音域と豊かな音楽性で演唱した。その他、日本オペラ協会主催『すて姫』の主役として、客演するなど次々と主要な役を的確に演じ分け、いずれも高い評価を得ている。

NHK･FM『午後のリサイタル』、TV『ニューイアーコンサート』、『ゆかいなコンサート』『題名のない音楽会』等に出演。

また、ヴェルディ、モーツァルトの『レクイエム』、ドヴォルザーク、ロッシーニ、ペルコレージの『スタバート･マーテル』、マーラーの『嘆きの歌』、ベートーヴェン『第九』等のソリストとして、多くの主要オーケストラより招かれており、とりわけ、その艶のある美声には、定評がある。

二期会会員。日本声楽家協会会員。武蔵野音楽大学講師。東京芸術大学非常勤講師。

井ノ上　了吏（いのうえ　りょうじ）

テノール

国立音楽大学声楽科卒業。

東京文化会館推薦オーディション合格。

日伊コンコルソ入賞及びイタリア声楽コンコルソ金賞、２年連続でテノール大賞受賞。

日本声楽コンクール入選。東京国際コンクール入賞及び海外留学助成金を受ける。

福嶋敬晃、鬱場知昭、中村健各氏に師事。二期会会員

91年３月、イタリアに留学。ジャチント･ブラデッリ、アリーゴ･ポーラ、ジュディッタ･パリス、エウジェニオ･フルロッティの各氏に師事して勉強するかたわら、ブレージャ、ベルガモ、ミラノ、モデナ、パルマ等の都市にて、ライオンズクラブ、ＡＶＩＳ等の主催によるコンサートにも数多く出演。

また、マントヴァ市主催のオペラ『ブルスキーノ氏』に出演、好評を得た。

パドヴァ国際コンクール、パヴィア国際コンクール等の入賞。

留学中にも日本での『魔笛』タミーノ、『椿姫』アルフレード等に出演するため一時帰国。

二期会公演『カルメン』、『椿姫』、『春琴抄』に出演の他、青山劇場にて『サルタン王の物語』、『３つのオレンジへの恋』に主演。宮本亜門企画オペラ『コシ･ファン･トゥッテ』のフェランド役、東京室内歌劇場『カイロの鶯鳥』のカランドリーノ役、都民オペラ劇場『ドン･ジョヴァンニ』のオッターヴィオ役等、さまざまなオペラに出演。

97年２月、二期会公演『パリアッチ』でペッペ役。98年には長野オリンピック記念オペラ『善光寺物語』、99年10月、二期会公演『コシ･ファン･トゥッテ』にフェランド役。

2000年４月、新国立劇場･二期会共催公演『サロメ』のラナボート役、同年８月、二期会公演『真夏の夜の夢』のライサンダー役、2001年２月、二期会創立50周年記念公演『こうもり』にアルフレード役で出演し好評を博す。

その他、コンサートの分野でもソリストとして活躍。

最近では、４月にペルティーニ指揮／東京都交響楽団ヴェルディ『レクイエム』に出演し、喝采を浴びた。

この７月には、二期会創立50周年記念公演ヴェルディ『ファルスタッフ』にフェントン役で出演し好評を得た。

伸びのあるリリックな美声と舞台栄えのする容姿で、人気の高いテノールである。

2002年1月新国立劇場『忠臣蔵』出演予定

松　本　　進（まつもと　すすむ）

バリトン

国立音楽大学声楽科卒業。同大学院オペラ科終了。野崎靖智･平野忠彦･中山悌一の各師に師事。

1981年、二期会オペラ『ニュルンベルグのマイスタージンガー』のハンスザックス役に急遽代役として出演し、彗星のごとくデビュー。

この長大な作品に対し、新人とは思えぬ堂々とした舞台を務め一躍注目を集めた。この業績によって、第９回『ウィンナワルドオペラ賞（ジローオペラ賞）』を受賞。1982年より、文化庁在外研修員として、２年間ウィーンに留学。リリー･コラー女史に師事。

1983年一時帰国し、日生劇場20周年記念公演で『魔笛』の弁者を歌う。1984年に帰国した後は、『魔笛』のパパゲーノ、『ジャンニ･スキッキ』のタイトルロールを始め、『フィガロの結婚』『コシ･ファン･トゥッテ』『セヴィリアの理髪師』『愛の妙薬』『椿姫』『アルジェのイタリア女』『蝶々夫人』『リゴレット』『ファルスタッフ』『タンホイザー』ブリテンの『真夏の夜の夢』『パリアッチ』等に加え、『人買い太郎兵衛』『黄金の国』『ちゃんちき』『金閣寺』『モモ』『罪と罰』『沈黙』といった邦人のオペラにも多数出演。いずれも好評を博し、舞台には無くてはならない存在になっている。

1999年８月『エディンバラ国際フェスティバル』の『トゥーランドット』では絶賛された。

また、コンサートにおいても『第九』を始め『カルミナ･ブラーナ』『メサイア』『エリア』『天地創造』『戦争レクイエム』等のソリストとして幅広く活躍している。

2001年１月〔東京〕･３月〔ソウル〕で公演の日韓共催オペラ『春･春･春』に出演し高い評価を受ける。

９月新国立劇場『トゥーランドット』･11月二期会『ホフマン物語』に出演。

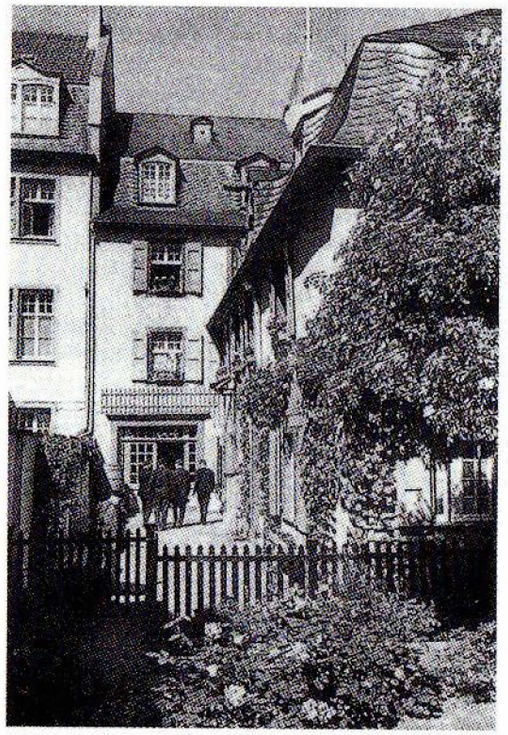
二期会会員･国立音楽大学･昭和音楽大学･東京学芸大学･各講師。

プログラム
PROGRAM

1．歌劇「魔弾の射手」序曲　ウェーバー

2．交響曲第９番　二短調　作品125「合唱付き」
ベートーヴェン

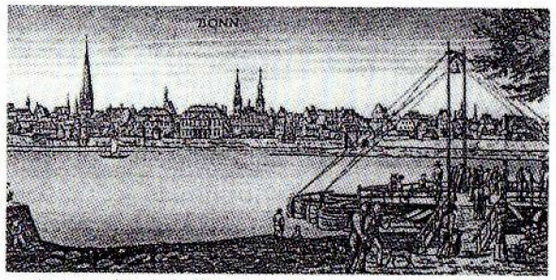
第１楽章　Allegro ma non troppo, un poco maestoso
第２楽章　Molto vivace
第３楽章　Adagio molto e cantabile
第４楽章　Presto


ベートーヴェンの生家（ボン）

ベートーヴェンは1770年12月16日、ドイツのボンで生まれた。1970年にはベートーヴェンの生誕200年を記念した様々な催しが全世界で行われた。

ボンで行われた"第九"の記念演奏会には日本からもある大学の合唱団が参加した。その演奏会の模様がラジオで中継されると、ボン中の人々は自分の家のラジオのボリュームを一ぱいに上げて、窓辺に外へ向かってそのラジオを置いたという。

ボン中にベートーヴェンの"第九"が鳴り響く様子は、実に壮観で感動的であったに違いない、と同時に、ボンの人々のベートーヴェンを誇りに思う気持ちと愛する気持ちが手にとるようにわかる。



ライン河の埠場から眺める対岸のボンの市全景　1800年頃

歌詞対訳
PARALLEL VERSION

■ シラー《歓喜に寄す》

対訳＝大宮　真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudenvollere.

バリトン独唱
おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう！

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium.
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flugel weilt,

バリトン独唱・合唱
①歓びよ、神々のうるわしい輝きよ！
楽園の娘らよ！
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう！
②この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再げ結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund !

四重奏・合唱
③大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情をかち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歓びの歌を、ともに歌え！
④しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！
だが、それさえ持つことのできなかった物は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht' vor Gott.

四重奏・合唱
⑤すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歓びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
⑥歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルピムは、神の御前立つ。

Froh. wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plab,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

テノール独唱・男声合唱
⑦歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
⑧同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

Seid umschlungen, Millionen !
Diesen Kuss der ganzen Welt !
Brüder ! uber'm sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder. Mi1 1ionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn über'm sternenzelt !
Über Sternen muss er wobnen.

合　唱
⑨たがいに手をとり合おう、億万の人々よ！
この口づけを、全世界にあたえよう！
同朋（はらから）よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
⑩ひれ伏して祈るか？億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか？世界の民よ。
星空のかなたに、王をさがし求めよう！
星たちのうえに、主は住み給うのだ！

1.歌劇「魔弾の射手」序曲

ウェーバー

カール・マリア・フォン・ウェーバー（Carl Maria von Weber 1786-1826）の代表作である歌劇「魔弾の射手」は、単にロマン派歌劇の典型であるだけでなく,歌劇史全体からみても、稀にみるほど生気にみちた作品として光を放ち、のちの歌劇運動に独特の影響を及ぼしている。

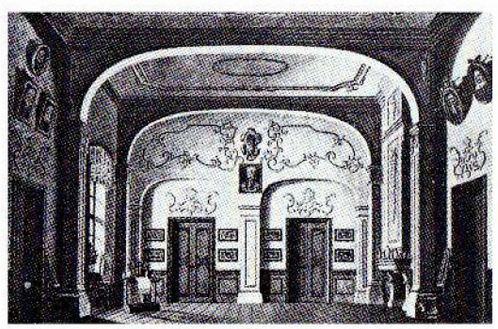
ボヘミアの深い森は狩人たちの生活の舞台であり、生活の源である。それは計り知れない不思議を秘めて人間を抱擁し,人間の限りない想像をさそう。

ウェーバーは、この歌劇作曲にあたって文学や造形芸術などすべての要素をき渾然と融合させ、音楽のうちに統合させるという総合的歌劇を意図した。さらに加えて、メンデルスゾーンが「ロマン主義管弦楽の武器庫」と賞讃したように、独創的な管弦楽法を生みだすなど、ワーグナーにいたるドイツ国民歌劇の道を準備した。

序曲は、数多い歌劇の序曲のうち最も有名なもので、これだけが独立して演奏されることも多い。Adagioのゆっくりしたテンポで開始される序奏は森の神秘をあらわす。ついで弦の伴奏にのって４本のホルンが有名な旋律を静かに宗教的な感じで歌う。この旋律は讃美歌にも歌われ、ひろく親しまれているものである。

やがてやわらかい木管の響きが森の空気を漂わせ、物語への導入がなされる。弦の妖しいトレモロが不思議な雰囲気を準備し、主部に入ると不気味な渦が低音弦から起こり、ついに第一主題が爆発する。第二主題はクラリネットで優しく歌われるもので、第一主題とは対照的に素朴な愛の力をうたう。

第一主題の動機を中心とした展開部を経て、再現部での第二主題の再現は独自の序奏をそなえた独立の部分をかたちづくり、大規模な終結の役をも果たす。



「魔弾の射手」第３幕　アガーテの部屋
1821/6/18　ベルリンでの初演時の舞台

2.交響曲第９番二短調作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ボンのフィッシェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしよう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときがら、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしてい合唱付きの交響曲構想が、いっきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における枝法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大なる精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規漢な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月７日夜、ウィーンのケルントナートア劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終ったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

〔第一楽章〕 Allegro ma non troppo, un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モティーフが生起する。このモティーフが圧縮され、第１主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく蕭然（しようぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第２主題は第１主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持をもち、ときどき第１主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第１主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

〔第二楽章〕 Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓びの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と言っている。

〔第三楽章〕 Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような明るく美しい第二主題は、この両主題にもとづく由由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことか、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

〔第四楽章〕 Presto

第１呈示部＝まず管楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティフでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティフによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第２呈示部＝この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめる。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌いくわわる。

再現部＝やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わされて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ＝曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストーソとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧問　下田宰城

委員長　草刈秀士

委員　神田一伸　林原隆治
草刈秀克　藤本幸弘
坂口幸男　松岡聡
田北洋康　本山洋
黒葛原潔　山崎崇伸

「熊本県民第九の会」合唱団

インスペクター　草刈　秀士　　CHORUS

Soprano
〈ソプラノ〉

青木成子
有田幸子
井上和子
梶原紀久子
木村礼子
相馬紗和子
多間田裕子
角田妙子
中村さやか
林田恵美子
東　満理子
藤川三倭
村田久美子
森川久美子
山崎史恵
上村貴世
大坪恭子
草野信子
工藤ひとみ
坂田みゆ紀
沢田和代
高田碩子
武田尚子
近田綾子
中村和子
橋本啓子
服部メイ子
東　恵子
宮本はつみ
宮本弘子
村田さおり
池田三千代
稲岡福子
大溝逸子
岡沢康子
岡村美智子
川田幸子
川部恵子
菅　千佳子
菊池安季子
蔵元由美子
小島美保
島野苓子
杉本由美子

立花知枝
田中美津代
谷口登紀子
田上みゆき
寺沢孝子
中島優美子
中村久代
波多野直子
服部敬子
畠山志津子
藤田悦子
前田真弓
松川千晶
松村紀子
松門寺阿古
宮田真理
矢住ハツノ
山本美穂子
笠　智子
相川久仁子
大代あき
荻　尚子
工藤たみ子
佐藤淑子
左座由紀
津留恭子
出口和子
馬場圭子
閘　優子
前田弥生
松本喬子
宮本恵子
横田味詠子
三輪まどか

Alto
〈アルト〉

相川ひろこ
井上涼子
上野亮子
宇野千晶
大堂喜三子
小原貞子
月精久美
菅　ゆみ

木山雅子
児玉秀子
小柳久美子
高本ゆか里
高吉真由美
辻　幸子
古庄律子
古田美枝
星崎文代
森　扶美代
和田かおり
井上美保
大塚ゆきえ
緒方節子
小沢美保
甲斐美恵
川上喜久子
河野美穂
倉岡　睦
佐藤詔子
紫垣　静
下田睦子
高橋愛子
辻田麻友
鳥居文子
中西吹雪
長橋　葵
東　真理子
藤田美代子
福間愛子
益田留美
三ツ川多賀子
宮崎紀子
宮本奈都美
宮本　恵
村上博子
村本由美子
毛利トシエ
山下富江
安田美喜子
愛甲訓子
安部桂子
生田朱実
池田三佐子
岩本良子
上村幸子

内田峯子
江崎恭子
大隅由紀子
大谷葉子
大塚喜久子
大塚幸子
岡　追子
小田順子
小山智子
甲斐道子
金澤久美
加茂千枝子
川崎節子
北原雅子
木原美智代
木村洋子
久保久美子
黒澤幸子
古賀紀久子
古賀菊代
坂本峯子
佐々木亨江
柴田道子
芝原登美
高比良栄子
竹下敬子
田尻和代
建山真理子
田中千勇子
谷口紀子
塚本和子
富崎聖子
中野俊子
中村美千子
野中久子
野田達代
幟川明子
濵田敏子
原　一美
平井実子
平嶋かずこ
広兼隆枝
廣田節子
福嶌邦子
福吉元美
藤原美智子

藤本恵子
古谷道子
前田恵美子
牧嶋喜代子
松本聖子
松本美知代
松村恵美子
峯田道子
三宅治代
宮辺浩子
森　敬子
森　幸子
守永マサ子
山本淳子
山本重子
吉富ちとせ
上野典子
大久保庸子
小山チエ
清原幸子
吉良圭子
草刈登喜代
杉本弘子
竹田綾子
玉井了子
徳永玲子
中山八重子
馬場美也子
平井裕子
松山典子
安田昭子
林　和妙
井手智子

Tenor
〈テノール〉

菊池忠孝
木山　彰
橋本洋一郎
日高重康
井芹良昭
柘植治人
徳永　仁
友住修武
西村　粋
原村憲司
稲田正雄
岩崎正博
上杉祐幸
上村哲也
内田　験
江島正彬
園城陽二
古閑靖規
斉藤龍也
潮崎真一
下林　豊

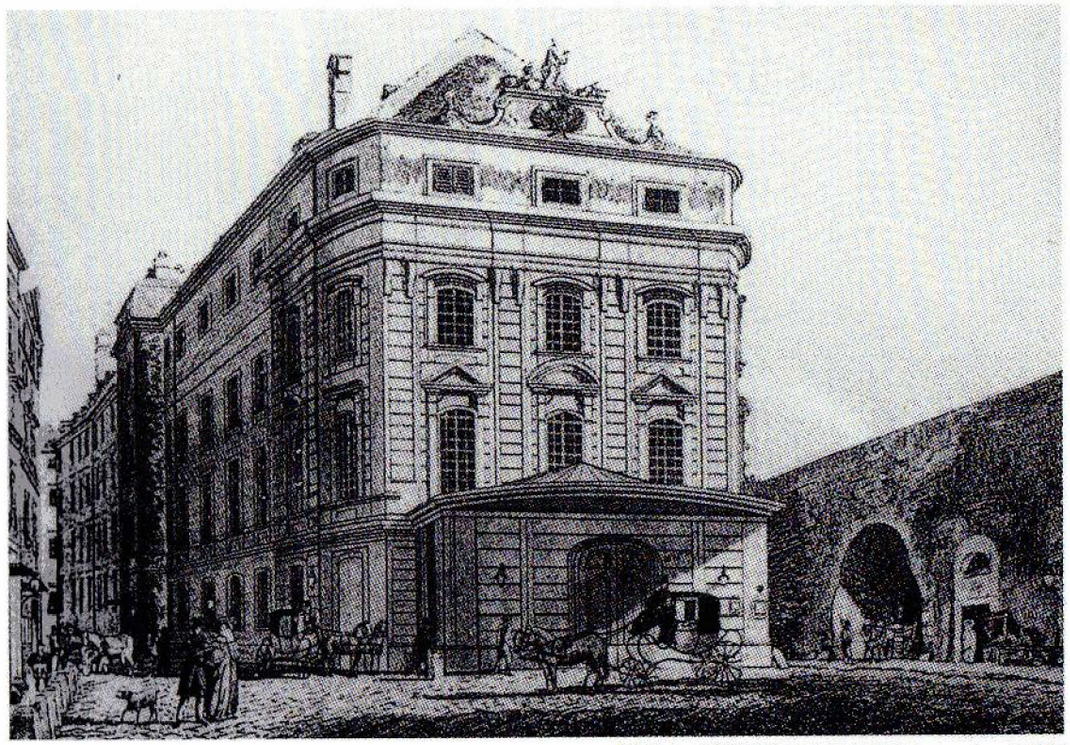
高倉正純
津崎一則
西垣　洋
西田成一
野田敦彦
日高啓輔
藤本雄二
矢上一英
山田弘二
笠　馨
大野昭雄
萩　昂
柏野勝広
小塚基夫
坂口幸男
干葉昌秋
閘　賢一
藤島浩三
松尾　眞
松下　衛
宮本　亨
吉原道彦
木梨興春

小山健一郎

Bass
〈バス〉

池田政紘
菊川英臣
中野久夫
窪田隆穂
坂田昭三郎
島田良代
武田健史
野口　喬
野中誠二
福池淳一郎
牧　智英
青柳正晴
池田秀雄
大塚邦和
菊池建朗
幸田祐一
後藤雅章
小濱田博幸
白石和男
新垣盛亨
竹川博之

田尻淳一郎
田畑　亨
中村倭文夫
永田　進
西本一成
福池　裕
前川賢夫
宮井　昭
武藤　隆
米村甲矢夫
神田一伸
清原直行
左座　守
中山　健
本多智毅
広重　真



「第九」の初演が行われたケルントナートーア劇場

熊本交響楽団
KUMAMOTO SYMPHONY ORCHESTRA

〈コンサートマスター〉 鶴　和美

〈1stヴァイオリン〉
内田 衣伊子
枝川 多鶴子
桂 敦子
高木 範貢
高木 恭子
高松 江三子
龍野 珠美
田中 唱
続 宏美
黒葛原 契子
鶴 和美
長坂 浩子
原 雅子
松山 奏
山口 みゆき

〈2ndヴァイオリン〉
岩本 暁子
岡 純子
置田 みどり
北山 尚子
小柳 敦子
坂田 弘子
佐藤 弘美
新川 友香子
高木 信雄
田上 るみ子
中尾 麻美子
野原 万友美
東 眞知子
村田 裕子
本山 洋
柳池 みずほ

〈ヴィオラ〉
安部 和歌葉
熱田 聡
荒木 拓実
池辺 京子
緒方 肇
清元 晃
甲田 啓子
黒葛原 潔
水田 剛
山﨑 崇伸
吉田 美智子
鷲山 法雲

〈チェロ〉
佐無田 護
槌田 博文
長尾 和治
永倉 照恵
長坂 輝喜
野島 秀司
Patrick Nowlin
佛淵 かつよ
佛淵 信夫
松永 尚子
三浦 純子
山中 朗史

〈コントラバス〉
桑原 寿哉
国米 稔
坂田 英津子
白木 信一郎
高木 美緒
田上 博子
歳田 和彦

〈フルート〉
相沢 久美子
大橋 みのり
椎葉 暁子
田上 里奈

〈オーボエ〉
荒田 優子
石田 栄理子
片岡 久哉
辰野 裕昭

〈クラリネット〉
浦本 由美子
緒方 裕子
黒木 健次
原 敏郎

〈ファゴット〉
小田 穂積
黒田 孔太郎
高木 群之
田村 聡司
星出 和裕

〈ホルン〉
奥羽 秀一
奥羽 朋子
斎藤 恵之
田中 禎子
栃原 みわ
山口 亮二

〈トランペット〉
市原 彰
永廣 正治
堀江 幸司

〈トロンボーン〉
書川 欣也
田北 洋康
寺本 昌弘

〈パーカッション〉
五反田 亮
白尾 友宏
唯野 佳香
山中 美雪

熊本県民第九の会演奏会記録
※は同時演奏曲

第1回　昭和57年12月28日（火）
指揮／山田 一雄　独唱／新 圭子　木村 宏子　伊豆野 修　高橋 修一
※越天楽（雅楽）……近衛秀麿（編曲）

第2回　昭和58年12月11日（日）
指揮／大友 直人　独唱／高見久美子　岡 ますみ　大野 光彦　柴田 啓介
※楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲……ワーグナー

第3回　昭和59年12月27日（木）
指揮／山岡 重信　独唱／中沢 桂　木村 宏子　板橋 勝　池田 直樹
※弦楽のためのアダージョ　作品11……バーバー

第4回　昭和60年12月25日（木）
指揮／ﾌﾗﾝﾃｨｼｪｯｸ･ﾜｲﾅｰﾙ　独唱／三縄みどり　妻鳥 純子　伊達 英二　中村 邦男
※序曲「レオノーレ」第3番　ハ長調　作品72a……ベートーヴェン

第5回　昭和61年12月27日（火）
指揮／荒谷 俊治　独唱／津下美奈子　木村 宏子　鈴木 寛一　芳野 康夫
※トッカータとフーガ　二短調……バッハ～ストコフスキー

第6回　昭和62年12月26日（土）
指揮／安永武一郎　独唱／中沢 桂　木村 宏子　近藤 伸政　栗林 義信
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第7回　昭和63年12月25日（日）
指揮／安永武一郎　独唱／三縄みどり　木村 宏子　鈴木 寛一　平野 忠彦
※序曲「コリオラン」ハ短調　作品62……ベートーヴェン

第8回　平成元年12月24日（日）
指揮／小松 一彦　独唱／秋山恵美子　木村 宏子　成田 勝美　高橋 啓三
※「プロメテウスの創造物」序曲　作品43……ベートーヴェン

第9回　平成2年12月23日（日）
指揮／栁山 和明　独唱／山田 綾子　木村 宏子　大野 徹也　福島 明也
※「ロオザムンデ」序曲　作品26……シューベルト

第10回　平成3年12月23日（日）
指揮／安永武一郎　独唱／西森 由美　木村 宏子　田中 誠　宮原 昭吾
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第11回　平成5年12月23日（木）
指揮／荒谷 俊治　独唱／河添 富士子　春日 成子　小林 彰英　栗林 義信
※楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲……ワーグナー

第12回　平成6年12月24日（日）
指揮／金 洪才　独唱／岩永 圭子　妻鳥 純子　饗庭 知昭　勝部 太
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第13回　平成7年12月24日（日）
指揮／金 洪才　独唱／西森 由美　妻鳥 純子　大島 博　大島 幾雄
※ モテット "アヴェ・ヴェルム・コルプス" k.618 ……モーツアルト

第14回　平成8年12月23日（月）
指揮／本名 徹二　独唱／河添富士子　妻鳥 純子　大間知 覚　瀬戸口 浩
※カンタータ147番よりコラール"主世、人の望みの喜びよ"BWV147…J.S.バッハ

第15回　平成9年12月21日（日）
指揮／金 洪才　独唱／志岐由理子　妻鳥 純子　牧川 修一　小川 裕二
※序曲「コリオラン」ハ短調　作品62……ベートーヴェン

第16回　平成10年12月20日（日）
指揮／井崎 正浩　独唱／佐々木典子　岩森 美里　井ノ上了吏　瀬戸口 浩
※序曲「レオノーレ」第3番　ハ長調　作品72a……ベートーヴェン

第17回　平成11年12月19日（日）
指揮／レオ・クレーマー　独唱／水野 貴子　青山智英子　持木 弘　松本 進
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第18回　平成12年12月23日（土）
指揮／金 洪才　独唱／河添富士子　妻鳥 純子　大間知 覚　大島 幾雄
※歌劇「フィデリオ」序曲　作品72b……ベートーヴェン

第45回
熊本県芸術祭参加
（第19回）

ベートーヴェン
第九

曲目

ウェーバー
歌劇「魔弾の射手」序曲

ベートーヴェン
交響曲第九番(dmoll Op.125)合唱付き

指定席	4,000円	当日4,500円
自由席	3,000円	当日3,500円
学生券(高校生以下)	1,500円	当日2,000円

指　揮　田代　詞生
ソプラノ　佐々木典子
アルト　青山智英子
テノール　井上　了吏
バリトン　松本　進
合　唱　熊本県民第九の会合唱団
管弦楽　熊本交響楽団

12/23(日・祝) 午後6時00分開演
熊本県立劇場コンサートホール

■主催/熊本県民第九の会・熊本県文化協会　■助成/(財)熊本県立劇場
後援/NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・FMK・CITY FM

■入場券は、10月28日より県立劇場および市内各プレイガイドにて発売します。
（熊本交通センター・西野楽器・熊本県立劇場）

■お問い合わせ先/熊本県民第九の会事務局　☎096(345)7285